

# 芸術科音楽におけるプロセスを重視したパフォーマンス評価の試み

広島県立賀茂高等学校  
芸術科音楽 教諭 栗木 陽子

## 1 はじめに

これまでに筆者は、音楽の授業を実施する中で、生徒に「どのように表現したいのか」を考えながら取り組むよう指導してきた。しかし生徒の中には、「間違えないこと」「正しいこと」を意識するがあまり、音楽表現に対する工夫の深まりを後回しにする者も多くいる。例えば、複数人のグループで演奏表現する場合、グループ全員が演奏できるようにと、表現したい内容そのものよりも、演奏の容易さを重視する傾向にあった。また、他者に演奏を披露するプレッシャーから、表現したい内容について意識が向かない生徒も多くみられた。生徒が「表現したいこと」を躊躇せず示し、思考する時間を充実させるためには、どのような工夫が必要なのだろうか。

そこで本研究では、先述の現状を改善する手段として、授業の中にパフォーマンス課題を取り入れることにした。パフォーマンス課題の条件を提示することによって「意図をもって演奏内容を計画する」ことを優先させ、「できるかどうか」だけでなく「どうしたいのか」を問い、評価することを重視した授業づくりを試みることにした。

## 2 パフォーマンス評価とは

### 2-1 パフォーマンス評価の概要

パフォーマンス評価は、アクティブラーニングの学習評価の方法の1つとしてよく取り上げられている。松下(2007)は、パフォーマンス評価を「ある特定の文脈のもとで、様々な知識や技能などを用いて行われる人のふるまいや作品を、直接的に評価する方法」<sup>1</sup>と定義づけている。そのための課題をパフォーマンス課題と呼ぶが、それについて西岡(2008)は「リアルな文脈の中で知識やスキルを使いこなすことを求める課題」<sup>2</sup>であり、さらに「学んだ知識やスキルを応用して実践したり表現したりすることを求めるような、複雑で総合的な課題」<sup>3</sup>であると述べている。

音楽の授業にパフォーマンス評価を取り入れるためには、単なる実技テストと異なり、生徒がイメージしやすいような特定の条件を提示し、具体的に計画や準備、練習などの過程をふませることが重要だと考えられる。

### 2-2 パフォーマンス評価に関する先行研究

横山・小島(2012)は、思考・判断・表現の質的評価を目指すパフォーマンス評価に着目し、音楽科におけるパフォーマンス課題に働く子どもの音楽的思考をどう質的に評価したらよいかを考察することを目的に、中学校の盆踊りの研究授業を実施した<sup>4</sup>。地元で伝わる盆踊りの特徴である「返し言葉」

<sup>1</sup> 松下佳代『パフォーマンス評価ー子どもの思考と表現を評価するー』日本標準ブックレット No.7, 2007, p.6。

<sup>2</sup> 西岡加名恵編著『「逆向き設計」で確かな学力を保証する』明治図書, 2008, p.9。

<sup>3</sup> 同書, p.10。

<sup>4</sup> 横山真理・小島律子「パフォーマンス課題における音楽的思考過程の質的評価」『大阪教育大学紀要 第V部門 教科教育』第61巻, 第1号, pp.59-72, 2012。

関するパフォーマンス課題を設定したが、その際、言語活動を意図的に組み込むことによって音楽的思考を顕在化することができ、質的な評価が可能になるという仮説を設定した。授業の分析および考察の結果、言語パフォーマンスだけでは生徒の学習の一部のみに光を当てた評価であり、言語パフォーマンスと身体パフォーマンスを相互に関連付けて評価することの必要性が示された。また、知覚・感受を土台に思考・判断・表現するという内容をもつ音楽的思考を、「関心・意欲・態度」と「知識・技能」とのかかわりで評価していくことが、個の学力の全体像を捉えるものとしての質的な評価につながるという考察が示された。

薄田・原田（2013）は、知的活動性（パフォーマンス）を表出させるためのパフォーマンス課題やルーブリックの作成方法について検討することを目的に、中学3年生を対象に鑑賞の授業を実施した<sup>5</sup>。パフォーマンス課題に取り組む前に、批評文と図形楽譜を取り入れた鑑賞を行い、生徒の思考の整理を支援した。その後、テレビコマーシャルで放映される楽曲の解説を協同で考えるというパフォーマンス課題と発表に向けてのリハーサルに取り組ませ、その後の1時間でグループごとに発表させた。図形楽譜の活用は生徒たちのパフォーマンスの創造に効果があったほか、動画によるルーブリックの提示および生徒との共有は、生徒が目指す姿の明確化や自己評価力の育成、自己認識力の向上につながったと分析されている。

### 3 仮説の設定

先行研究や、本校の生徒の課題、目指す生徒像などをふまえ、今回は仮説を以下のように設定することとした。

パフォーマンス課題は元来、生徒の思考力や判断力など、生徒が表現するまでの過程が重要となる課題である。本校の生徒の中には、表現内容よりも演奏の容易さや正確性を重視する生徒や、他者に対して表現することへの自信のない生徒が一定数存在することを考慮する必要があると筆者は考えた。グループごとに協働して課題に取り組むことも有効ではあるが、今回は生徒個人々の音楽的思考を丁寧に読み取り、言語パフォーマンスとその他のパフォーマンスとを関連付けながら評価する必要があるのではないだろうか。また、先行研究にあったようなリハーサル時間の確保等によって生徒に自信をもたせることは必要であるが、一人ひとりが実演をするとなると教師1名での指導に限界があると考え。そこで、リハーサルの代わりに、生徒が自信をもって表現できるような支援をする必要がある。

そこで今回は、以下の2点を試みることで、意図をもって演奏内容を具体的に計画し表現する力が向上すると仮定した。

- ①パフォーマンス課題を実施する計5時間を3日に分け、1日目と2日目が終了した時点で、計画途中の計画書の評価し、助言する。
- ②生徒が実際に計画した内容と演奏技能の程度とに乖離がある場合、演奏での実演に加えて、口頭で補足することも可能とする。

## 4 授業計画

### 4-1 概要

○学科・学年 普通科第1学年94名（A組：16名 B組：26名 C組：26名 D組：26名）

<sup>5</sup> 薄田茂樹・原田信之「中学校音楽科鑑賞領域におけるパフォーマンス評価の導入」『教師教育研究』岐阜大学教育学部、第9号、2013。

- 題材名           ギターでの音楽表現
- 使用教材       「夢の中へ」（井上陽水作詞・作曲）  
「幸せなら手をたたこう」（スペイン民謡 木村 利人訳詞）

- 題材の目標    (1) 曲想や奏法とのかかわりから生まれる演奏効果の違いについて理解し、曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身につける。
- (2) リズムやコードの特徴とそれによって生み出される演奏効果の違いをそれぞれ知覚し、よさを感じ取りながら自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫し演奏する。
- (3) ギターの音色やリズム・速度・強弱等を知覚し、曲想や表現上の効果を理解しながら、創意工夫して表現する学習に主体的に取り組む。

○題材の評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
①ギターの音色や奏法の特徴及びそれらによって生み出される響きや表情などに関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。(器イ)	①ギターの音色、旋律がもつリズムや音高、コードを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受している。(器エ) ②①を知覚・感受しながら、ギターの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(器イ)	①ギターの音色の特徴を生かした音楽表現をするために必要な奏法や姿勢を身につけ、創造的に表している。(器イ)

4-2 題材計画（全8時間）

時	主な学習活動	評価規準（方法）
1	ギターの構え方、基本的奏法について学習する 単音奏法を習得し、音階を演奏する	観点1-①（観察）
2	ギターのチューニングの方法について学習する コード4種類（G Em Am D7）を練習する	
3	アップ・ストロークとダウン・ストロークを用いてコードを演奏する 2人1組で、井上陽水作曲「夢の中へ」の一部の伴奏と歌唱をする	観点2-①（観察）
4	アルペジオ奏法でコードを演奏する パフォーマンス課題の内容を把握し、伴奏の方向性を決める	観点2-② （観察・計画表）
5	パフォーマンス課題の実施に向けて、伴奏の立案と練習をする	観点2-② （観察・計画表）
6		
7	パフォーマンス課題の実施	観点2-② 3-① （計画表・発表内容・ 口頭質問）
8	課題の振り返り、発展課題に向けた立案と練習、発展課題の実施	

4-3 パフォーマンス課題

課題内容	あなたは、地域の公民館で実施中の「放課後子ども教室」に、ボランティアとして訪問することになりました。スタッフの方からは「最近子どもたちが練習している『幸せなら手をたたこう』と一緒に歌ってあげてくれませんか？」と頼まれています。そこであなたは、ギターを用いて『幸せなら手をたたこう』を伴奏し、子どもたちと一緒に歌うことにしました。 ギターを用いた伴奏を計画して、演奏してください。
本質的な問い	目指す曲調に近づけるためにすべき工夫とは、どのようなものか。

永続的理解	目指す曲調に近づけるには、使用する楽器の特徴を理解し、曲にふさわしい音色や奏法を工夫する必要がある。また、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）のかかわり合いを感じ取りながら試行錯誤して表現を工夫していく必要がある。
-------	--

#### 4-4 ICEに基づくパフォーマンス評価規準

レベル 資質・能力	Ideas (基礎知識)	Connections (つながり)	Extensions (応用)
(2) 器楽ーイ ギターの音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する	ギターコードを押さえ、ストローク奏法やアルペジオ奏法で演奏することができる。	ストローク奏法やアルペジオ奏法を、楽曲の拍子や速度に合わせて演奏することができる。	目指す楽曲の雰囲気を考慮して、適切な奏法を選択したり、弦を弾く強さや手の動かし方を変えてギターの音色を工夫したりしてギターを演奏することができる。
(2) 器楽ーエ 音楽を形づくっている要素を知覚し、適切に選択して伴奏を計画し、演奏する	指定されたリズムや速度で、ギターを演奏することができる。	既習のリズムから複数を組み合わせてパターンをつくり、旋律に合わせて任意の奏法で演奏することができる。	楽曲の旋律やコードの特徴、目指す楽曲の雰囲気を考慮して伴奏のリズムや強弱、速度などを工夫し、ギターを演奏することができる。

## 5 授業の実施

以下、パフォーマンス課題を提示した4時間目から、計5時間(3日分)の授業の様子を以下に示す。なお、授業で用いた計画書を別紙1に示す。

### 5-1 4時間目(パフォーマンス課題1日目)

今回のパフォーマンス課題について、プロジェクターを使ってクラス全体に説明した後、計画書を配付して(1)の記入を指示した。伴奏をしながら初対面の小学生と一緒に歌うという設定に戸惑う生徒も多かったが、周囲と意見を交わしつつ、各自のイメージの方向性を示した。生徒の記述内容は大方、「楽曲に合わせて、あるいは場を盛り上げるために楽しく明るい雰囲気」または「どのような性格あるいは年齢の児童でも歌えるように落ち着いた雰囲気」のどちらかに大別された。しかし、(1)に対して演奏の速度など、楽曲の雰囲気以外の内容の言及に終始する生徒が数名見受けられた。

(1)の記入が済んだ生徒から、旋律とコードを付した楽譜(図)を参考に、随時(2)の計画立案に進むよう指導した。記入途中の計画書は教師が回収し、記入方法や説明不十分箇所を中心に助言を記入することと併せて、1回目の評価を実施した。

### 幸せなら手をたたこう

しあわせならてをたたこう しあわせならてをたたこう しあ

わせならたいどでしめそうよほらみんなでてをたたこう

図1 生徒に提示した楽譜

## 5-2 5～6時間目（パフォーマンス課題2日目）

計画書の（2）を記入しながら、適宜試演と練習を行うように指示した。（2）では、奏法を選択し、速度や強弱など、音楽的要素に着目してどのような工夫をするべきなのか考えるよう指示した。弾きながら考える生徒、計画をある程度記入してから試演する生徒などやり方はさまざまであったが、生徒からは「弾きたいリズムは頭にあるが、楽譜に起こせない」「楽譜として書いたが、これで合っているのか自信がない」という発言が多く、教師は机間巡視をしながら、主に楽譜の書き方を助言したり、決めたりリズムを弾くための奏法の確認をしたりした。また、「何を基準に計画したらいいのか分からない」という生徒に対しては、旋律のリズムや音高について特徴を見つけさせ、旋律に対してどのような伴奏を組み合わせるべきか、思考する段階を支援した。

なお、6時間目までに実演を実施した生徒は学年内で計4名であった。4時間目と同様に、計画書は授業後に回収して教師が助言を記入し、2回目の評価を実施した。

## 5-3 7～8時間目

1人ずつ別室にて、計画の実演を実施した。教師は実演の前に計画書を確認し、工夫点とその理由について口頭で質問した。その後、教師を小学生役として演奏の実演をしてもらった。生徒は実演終了後、計画書の（4）を記入し、計画と実演それぞれに対する自己評価を行った。教師は最終評価として、①目指す伴奏の雰囲気具体化、②①に近づけるための音楽的要素の工夫、③①に近づけるためのギター奏法の工夫、④演奏の出来栄の4つの視点から一連の計画および実演を評価した。

# 6 分析と考察

## 6-1 仮説①

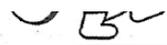
演奏計画の例として、図2に生徒Aの計画書（抜粋）を示す。

生徒Aは、6小節目から8小節目にかけて盛り上げようと考え、演奏する速度に着目して伴奏を計画した。1回目の提出と評価のあと、生徒Aはまず教師の助言どおり、演奏時の速度を数字で表した。さらにその過程において、単に徐々に演奏速度を上げるのではなく、1番から2番、2番から3番へと移る際に段階的に速度を上げたうえで、3回目の曲の終盤を最も盛り上げようと計画を発展させた。最終的には「明るく楽しい」曲調を目指し、速度の緩急を強調するためのダウン・ストロークの工夫を施すことができていた。

また、図2に、生徒Bの計画書を示す。生徒Bは2回目の時点で、5～6小節目に他の小節とは異なるリズムパターンを計画していたものの、その理由が明確になっていなかった。このリズムの違いを指摘されたことによって、感覚的に捉えていたリズムを理論的・客観的に捉え直すこととなり、生徒Bは「5小節目で一度曲調を落ち着かせてから、最後に向かって盛り上げたい」という意図を明確にすることができた。さらに、意図が整理できたことによって、その意図をさらに明確に伝えるために、強弱の変化も加えることができていた。

このことから、計画途中の計画書を評価し、助言することは、生徒のより深い思考を誘発する効果にある程度つながったと考えられる。

(2) ギターを使用して伴奏する場合の計画を立てよう。ただし、(1)をふまえること。



どういった奏法を用いる？ 速度や強弱は？ 途中でどのような変化が必要？

ストローク ・ アルペジオ ・ その他 ( )

盛り上げたところの前も、ゆくり小さく。

最初はゆくりだして、トクたんはゆくり (211) 具体的な数字を示す。

1回目はゆくり、2回目は標準の早さ、3回目は少し速くするの速さで、  
♩ = 80, ♩ = 110, ♩ = 150?

「あめんなで...」の前 (Am) で、1弦ずつ ゆくりしてゆく → どのような効果下  
3回目は、しめろよの後に3拍おき、タン、タン、タン、曲の終わりはバラしてゆく。その後で盛り上げるため。

どういったリズム？

タン、タン、タン (口) のリズムを示す。  
タン、タン、タン (V) のリズムを示す。

曲の前半は特に休符が多いが、弦の響きは止め時か？ (1) の結びつきは休符の束し方を考える。

4/4

rit.

3拍 3拍おき

3拍目

このP エンディングはいい!

図 2 生徒 A の演奏計画書の変化

< 2回目 >

どういうリズム? 符点を用いたリズム

↑  
ニど間に休符をはさんでいるが、  
この分だけ効果が下がっていますか?

リズムの書き方はOK.

< 3回目 >

どういうリズム? 符点を用いたリズム ← 歌(コーラス)のリズムと合わせて歌いやすく

↑  
ニど間に休符をはさんでいるが、  
この分だけ効果が下がっていますか?

リズムの書き方はOK.

図 3 生徒Bの演奏計画書の変化

実演に至るまでには、演奏計画書を2回評価した。1回目と2回目の評価<sup>6</sup>の人数内訳を、表1に示す。

1回目の評価および問いかけをもとに、多くの生徒が思考を深めた結果、表現したい内容の熟考が促され、表1のような推移につながったと考えられる。

### 6-2 仮説②

実演の際に、5名の生徒が計画通りに演奏できない点について口頭で補足説明をした。理由はそれぞれ「コードチェンジが間に合わないのでやむを得ず計画とは異なるリズムで演奏する」「コードチェンジが間に合わないので計画よりも速度を落として演奏する」など、コードチェンジに関わるものであった。パフォーマンス課題の前に取り組んだ「夢の中へ」と比較すると、コードチェンジの際の指移動が多少複雑になっており、特に高等学校での授業で初めてギターに触れた生徒にとってはハードルが高か

表 1 評価の人数内訳

回数 評価	1回目	2回目
A	0	23
B	88	67
C	5	0

<sup>6</sup> 表1の評価について、ICEモデルのIの部分に相当するものをC、Cの部分に相当するものをB、Eの部分に到達しているものをAとして評価し、生徒の計画表に記入した。

った、あるいはパフォーマンス課題に至るまでの授業計画に問題があったと推測される。しかしながら今回のパフォーマンス課題の諸条件が、生徒に「このように弾くべきだ」「このように弾きたい」という具体的な意図をもたせることを助長することにはつながったと考えられる。

一方、演奏に音楽的な変化や特徴をいろいろと盛り込んだものの、それにどのような意図があるのか問われると説明できず、「特に理由はない」「何となく」と回答する生徒や、パフォーマンス課題の諸条件を無視して「弾ける伴奏」であることを最優先にして実演に臨んだ生徒も一定数存在した。この原因の1つとして、伴奏の計画を立てる前の、楽曲の内容に関する分析の不足が挙げられる。パフォーマンス課題の楽曲として選択した「幸せなら手をたたこう」は、付点音符のリズムによって構成される旋律や、フレーズの中に挟まれる休符、「幸せなら」「手をたたこう」など繰り返して出てくる歌詞およびその際の音高の変化など、さまざまな特徴がある。教師の支援がなくとも、旋律の特徴を読み取ったり、指定されたコードから特徴を見い出したりした生徒も多くいたが、それを明確に根拠として説明できた生徒とできなかった生徒に分かれてしまったことに、今回の取組みの問題点が見受けられる。もし、楽曲の特徴やよさを整理することができていた場合、ギターの奏法や音色に関する工夫も、より顕著に表れていたのではないだろうか。課題の内容設定や実施過程に関しては、今後さらなる検討が必要である。

## 7 おわりに

平成30年に告示された高等学校学習指導要領 芸術科（音楽）では、表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力を示す〔共通事項〕が新設されたが、そのうち「思考力、判断力、表現力等」に関する項目として「ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。」「知識」に関する項目として「イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。」と示された<sup>7</sup>。授業で身につけた知識や技能をいかに活用し、いかに柔軟に創造できるかを問うために、今回のようなパフォーマンス課題は有効な手段の1つではないだろうか。

## 8 引用・参考文献

### <文献>

松下佳代『パフォーマンス評価ー子どもの思考と表現を評価するー』日本標準ブックレット No.7, 2007。  
松下佳代・石井英真編『アクティブラーニングの評価』アクティブラーニング・シリーズ第3巻, 東信堂, 2016。

西岡加名恵編著『「逆向き設計」で確かな学力を保証する』明治図書, 2008。

薄田茂樹・原田信之「中学校音楽科鑑賞領域におけるパフォーマンス評価の導入」『教師教育研究』岐阜大学教育学部, 第9号, 2013。

横山真理・小島律子「パフォーマンス課題における音楽的思考過程の質的評価」『大阪教育大学紀要 第V部門 教科教育』第61巻, 第1号, pp.59-72, 2012。

### <web 資料>

高等学校学習指導要領（平成21年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000\\_8.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_8.pdf)

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/28/1407073\\_08\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/28/1407073_08_1.pdf)

<sup>7</sup> 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編, p.52。

【別紙資料】

## 令和元年度 音楽Ⅰ パフォーマンス課題

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

課題：あなたは、地元の公民館で実施中の「放課後子ども教室」に、ボランティアとして訪問することになりました。スタッフの方からは「最近子どもたちが練習している『幸せなら手をたたこう』を一緒に歌ってあげてくれませんか？」と頼まれています。そこであなたは、公民館の音楽室に置いてある楽器を用いて『幸せなら手をたたこう』を伴奏し、子どもたちと一緒に歌う計画を立てようとしています。

### 【音楽室に置いてある楽器一覧】

ピアノ ・ ギター ・ タンバリン ・ カスタネット ・ ウッドブロック ・ リコーダー

(1) どのような雰囲気・曲調にすれば、小学生たちが歌いやすくなるだろうか？簡条書きで3つ程度挙げてみよう。

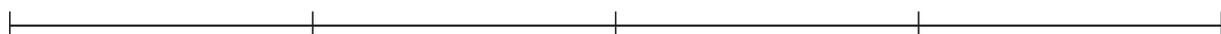
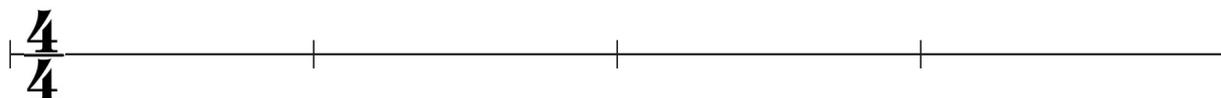
- 
- 
- 



どういう奏法を用いる？ 速度や強弱は？ 途中でどのような変化が必要？

ストローク アルペッジョ ・ その他( )

どういうリズム？



できる限り、すべて通して演奏しましょう。また、自分で歌いながら演奏しましょう。  
ただし、どのような伴奏かが分かるように示せるのであれば、途中までの演奏になってもかまいません。

(2) ギターを使用して伴奏する場合の計画を立てよう。ただし、(1) をふまえること。

(3) (2) で計画した伴奏を、実際に練習しよう。

(4) 自分の演奏計画と演奏について振り返ろう。

自己評価	演奏計画の出来栄 点数		演奏の出来栄 点数	その点数をつけた理由（できた点・不十分だった点など）	
	／100点		／100点		
他者評価	第1回評価	第2回評価	最終評価		
			目指す伴奏の曲調を具体的に考えている。		総合評価
			音楽を形づくる要素（リズム・ハーモニー・強弱・速度など）に着目して、目指す伴奏の曲調に近づける工夫ができています。		
			目指す伴奏の曲調に近づけるために、楽器の奏法を適切に選択できている。		
			計画に沿って、正しく演奏表現できている。		



ここからは、チャレンジしたい人への+α課題です!!!



(5) ギターの代わりに別の楽器で伴奏する場合、または、ギターの伴奏に別の楽器を加える場合の計画を立てよう。ただし、(1)をふまえること。

( ギターの代わりに ・ ギターに加えて ), ( ) を使用する

どういう 弾き方 / 叩き方 / 吹き方 ? 速度や強弱は? 途中でどのような変化が必要?

どういうリズム?

